



瓶の井・明月院境内

有名な「三矢の訓」を残した戦国時代の英雄・毛利元就は、本年が生誕五百年にあたる。明応六年（一四九七）、安芸国吉田荘（広島県吉田町）の小領主であつた父・弘元の次男として生まれた彼が、後に中国地方の大半分を手中に收めるほどの大名へ躍進するとは、當時はだれもが予想しないことであった。元就が中国各地を転戦していた時代、吉田は「西の

鎌倉の名数

鎌倉には、そのかしりに数字をつけて呼ぶ旧跡がある。五山・三名鐘・七坂など十名水・十橋がそれなり、これらを鎌倉の名数といふ。五山・切通しつい

あり、名水は十井に付隨する。五山・三名鐘・七坂に十井（切通し）・十井（せいや）と名水・十橋がそれなり、これらを鎌倉の名数といふ。五山・切通しつい

ては既稿で述べたといひてゐる湧水で、すでに源景の絶えたものもある。

鎌倉十井

水の悪い鎌倉でとりわけうまいとされる水質で、ま

た伝説にまつわる十の井戸を選んだものである。棟立の井は覚園寺境内の山並み、家の破風型をした石組みの下から清水が湧き出しているといふから名付けられた。甘露の井は淨智寺参道入口にこんこんとしひて湧き出ている。頼朝がこの名がある。源義經の思ひで、頼朝・政子の面前で義経を恋う歌を詠じて舞

吾妻鏡に見る

鎌倉の再発見 (39)

毛利元就、そのゆかりの地を訪ねて、「生誕の地『吉田』から『嚴島の戦い』へ、一本では折れ易くとも、三本の矢を束ねれば簡単には折れない。人も又同じ……」

有名な「三矢の訓」を残した戦国時代の英雄・毛利元就は、本年が生誕五百年にあたる。明応六年（一四九七）、安芸国吉田荘（広島県吉田町）の小領主であつた父・弘元の次男として生まれた彼が、後に中国地方の大半分を手中に收めるほどの大名へ躍進するとは、當時はだれもが予想しないことであった。元就が中国各地を転戦していた時代、吉田は「西の

毛利元就、そのゆかりの地を訪ねて、「生誕の地『吉田』から『嚴島の戦い』へ、一本では折れ易くとも、三本の矢を束ねれば簡単には折れない。人も又同じ……」

京」と称されるほど繁栄を誇っていた。孫の輝元が広島城へ移城した後は衰退しかかるが、幕藩時代に浅野領となり、山陰・陽を結ぶ要衝の地として宿場が置かれた。現在の吉田町は広島市の北東四十五kmほど

旅のワンポイントガイド

京」と称されるほど繁栄を誇っていた。孫の輝元が広島城へ移城した後は衰退しかかるが、幕藩時代に浅野領となり、山陰・陽を結ぶ要衝の地として宿場が置かれた。現在の吉田町は広島市の北東四十五kmほど

の農業を中心とした山間の静かな町であるが、元就の本拠地だった郡山城跡を中心、前述の三矢の訓跡碑・同城拡張工事の際に人柱の代わりに埋められた

「百万一心碑」、元就をはじめとする毛利一族の墓所などが往時の面影を感じさせ

る史跡が数多く残っている。

一方、広島市の南西に位置する、元就の命運をかけて宿敵・

飼氏を打ち破った「嚴島の戦い」が行われた地である。海上に大鳥居を望み、百八間の回廊と寢殿造りの威容を誇る嚴島神社は、平安時代の優雅さを現在まで色濃く伝えており、先づ世界

を転じれば宮島町、元就が自らの命運をかけて宿敵・

観光事情の現況説明と質疑応答等を予定している。

北海道修学旅行懇談会

東京・福岡・佐賀で開催

横浜・日本丸の

総帆展帆と満船飾

△総帆展帆

△満船飾

△横浜・桜木町駅前

△横浜・桜木町駅前